

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期	1	2	選択
担当教員			
小栗 勝也			
添付ファイル			

講義概要	<p>日本は民主主義国家であり、主権者は私たち自身である。私たちは、この主権を正しく行使し、日本の進路を誤らないために、政治現象についての正しい知識と判断能力を備えていなければならない。政治・社会をよくするも悪くするも、すべては国民の質如何にかかっている。科学技術もまた、健全な社会観を有する人間によって適切に用いられなければ、私たちの暮らしにマイナスの影響を及ぼすであろう。本講は以上のような観点から、政治と人間についての基本的な問題を講述し、現在及び将来の世界と日本の政治・社会の動向を把握できる眼を少しでも涵養することを目標としたい。抽象論主体ではなく具体的な事例を多数紹介する。特に重要な問題である安全保障問題を多く取り上げたい。概ね、次のような内容を予定している。</p>
授業計画	<p>1 政治の目的 1 国家社会の秩序維持の仕組み 【事前準備】 シラバスを読み、授業全体の流れと注意事項を把握しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>2 政治の目的 2 政治の2つの目的、自然権としての国家の自衛権 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>3 国際社会の特徴と安全保障問題の視点 1 国内政治と国際政治の違い 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>4 国際社会の特徴と安全保障問題の視点 2 湾岸戦争と日本の態度 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>5 「平和」の虚実 1 平和共存とは 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>6 「平和」の虚実 2 日本の反核運動、PKO法案 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>7 前半のまとめと演習 1回から6回までの授業内容のまとめと演習 (授業中に復習テストを実施する) 【AL】 AL=アクティブラーニングの④に相当する課題 (自分自身の個人的な考えを自ら深める)を兼ねて実施するまとめ。 【準備学習】 これまでの授業内容の全てを復習しておくこと (3時間以上)</p> <p>8 小泉信三の「平和論」 1 全面講和論と小泉の主張の違い 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>9 小泉信三の「平和論」 2 偽物の中立論と、永世中立国家スイスの実態 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>10 小泉信三の「平和論」 3 ソ連参戦と日本、東西冷戦構造 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>11 民主主義と非民主主義 1 非民主主義国家の実態から民主主義の尊さを考える 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p> <p>12 民主主義と非民主主義 2 非民主主義国家の政治運営 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)</p>

	13	民主主義と非民主主義 3 非民主主義国家の社会実態① 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)
	14	民主主義と非民主主義 4 非民主主義国家の社会実態② 【準備学習】 前回の授業内容を復習しておくこと (1.5時間) 【事後課題】 授業内容を振り返り、自分のノートを補強しておくこと (1.5時間)
	15	後半のまとめと演習 8回から14回までの授業内容のまとめと演習 (授業中に復習テストを実施する) 【AL】 AL=アクティブラーニングの④に相当する課題 (自分自身の個人的な考えを自ら深める)を兼ねて実施するまとめ。 【準備学習】 これまでの授業内容の全てを復習しておくこと (3時間以上)
	16	定期試験 全部の授業内容を出題範囲とした試験を行う
授業形態	講義 アクティブラーニング : ①:0回, ②:0回, ③:0回, ④:2回, ⑤:0回, ⑥:0回	
達成目標	次の1～3について理解できることを目標とする。 1、政治の仕組みと民主主義の大切さについての基本的知識を理解し、非民主主義国との相違を具体的に理解できる。 2、過去・現在の国家間関係の実態を理解し、現実主義的安全保障観の重要性を具体的に理解できる。 3、一般的な政治評論中に時に見られるような誤った解釈を誤りであると理解できる。	
評価方法・フィードバック	達成目標1～3の全般について問う定期(期末)試験を重視し、その結果で評価することを原則とする。ただし期末試験(100点満点)の結果が60点未満であった者については、授業中に行なう演習テスト又はレポートの結果(ABCDで評価)が特に優秀であった場合には、期末試験の得点に加算(Aは20点、Bは10点を加算)し、その値で評価する。但し、この加算によって60点を上回る場合は60点を上限として最終的な得点とする。 授業中に実施した演習テスト又はレポートに関するフィードバックについては、実施(又は提出締切)の翌週の授業で模範解答(小論文問題やレポートの場合は期待される内容の要旨)を示し、自己採点できるようにする。	
評価基準	秀:(目標1～3について完全に理解)100～90点、優:(目標1～3についてほぼ理解)89～80点、良:(目標3つのうち2項目を完全に理解)79～70点、可:(目標3つのうち2項目をほぼ理解)69～60点、不可:59点以下。(目標の数字は到達目標の数字を示す)	
教科書・参考書	教科書:講義中、適宜指示する 参考書:講義中、適宜指示する 推薦図書:中村勝範『正論自由・第1巻～第15巻』(慶應義塾大学出版会)	
履修条件	なし	
履修上の注意	・私語、飲食等厳禁 ・情報学部の学生で将来、小栗担当の「情報デザイン実践演習2」(3年後期)&「卒業研究」(4年)に就くことを希望する者は、3年前期終了までに本科目、及び「歴史学」(I類)、「マスコミ論」(情報デザイン学科・III類)に合格していることが強く期待されているので承知しておくこと。	
準備学習と課題の内容	各回の授業計画中に記してある通り、「準備学習」(1.5時間)として、毎回、前回の授業内容を復習し、完全に理解した上で授業に臨むこと。同様に、授業後の「課題」(1.5時間)として、自分のノートにミスや遺漏が無いかをチェックし、各自で補強しておくこと。その際、必要なら、いつでも小栗に質問に来ること。	
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	知識・理解:30%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:25%, 態度:10%, 技能・表現:5%	
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		